



11月6日(土)の土曜参観、絵画作品展に併せて、情報モラルの講演会を行いました。情報化社会を生きる子どもたちに、大人としてどのような責任や導き方があるのか、その指針をいただける有意義な講演会でした。講演会の内容を簡潔に紹介させていただきますので、講演会に参加されなかった保護者の皆様にも参考にしていただけたらと思います。(児童向け(3~6学年)の講演会でも、ほぼ同じ内容の講演がなされました。)

情報モラル講演会

演題「情報社会に生きる子どもたちのために 大人たちが知っておくべきこと」

講師 東中野山小学校 校長 山本 政義 様

1 新津第一小学校児童の実態

事前にとったアンケート結果から、当校児童の SNS に関する実態が報告されました。

- インターネット上にあるサイトにメッセージや写真、動画を送ったことがある児童が多い。(3・4年…9人, 5・6年…60人)
- 5・6年の60人に、「どのようなものを投稿したか」の質問結果
メッセージ…48人 写真…34人 動画…21人
- LINE や YouTube, TikTok 等に、気軽に投稿するケースが多い。

2 無知が一番怖い…まずは知ることから

◇新潟市内の学校で起きているトラブル(一部紹介)

- オンラインゲームのボイスチャットで悪口やひどい言葉を言われたり、嫌がらせをされたり、仲間外れをされたりしている。オンラインゲーム上で使われる「死ね」「だっせえ」「くたばれ」などの言葉が学校で蔓延していく。
- LINE でトラブルになり、友だちとの関係がぎくしゃくし、不登校になる。この危険性は、LINE を使用していれば、必ず起こり得る問題である。
- SNS で悪口や嘘の情報を流される。
- 自分の動画を勝手に撮られて動画アプリに投稿される。
- 夜中までメッセージのやり取りが続くが、自分からは仲間外れが怖くてやめられない。
- 自分の体の一部の写真を SNS で友達に送ったら、他の人にばらまかれた。
- SNS で知り合った女子中学生と会う約束をしたが、実際には女子中学生ではなくおじさんが来た。



◇ネット依存症

「ゲーム・ネット依存症」の症状

- ・自分でゲームやネットをやめることができない。
- ・生活のリズムが崩れる。
- ・ゲームやネットをしていないと不安になる。イライラする。
- ・自分が何をしているのか、分からなくなる。
- ・誰もいないのに、声や音が聞こえる。



◇ネット・ゲーム依存症にならないようにするためには

- ① インターネットの特性や危険性について理解すること。
- ② ネットやメールをする時間を決める。やらない日を設ける。
- ③ 現実の生活の充実（旅行，キャンプ，映画，水族館等）。

3 トラブルを防ぐコツ

- ① 相手を傷付けたり勘違いさせたりする言葉（いいよ，結構等）は使わない。
- ② YouTube や LINE などをする時間やルールを決める。
家族と決める。友だちと決める。
→ 最近は，PTA でルールをつくって提案したり，中学校では，生徒会でルールをつくったりするケースもある。
- ③ 無責任な投稿はしない。ネット上で発信した言葉，動画，写真はあっという間に拡散し，完全に消すことはできない。軽はずみな行動で，自分が被害者にも加害者にもなる。
- ④ 本人，友だちが被害にあった場合は，すぐに大人に相談する。子どもだけでは，絶対に解決することはできない。

4 保護者の皆様に知っていただきたいこと

- ① LINEやネットゲームをするとトラブルになる危険性は極めて高いため利用させるにはその覚悟が必要。
→ スマホは親が管理する。親が買ったもので，子どもに貸すというスタンスで与える。ルールを守れないのであれば，返してもらう。
 - ② 子どもがどんなことをしているのか，どんな状況になっているのか把握しておく。管理ができないのであれば，スマホを与えるのは危険。
 - ③ 「親のものを貸している」のスタンスを崩さず，いつでもチェックできるようにしておくことが大切。
「自分の部屋には持っていない。」「寝るときはリビングで充電。」等
 - ④ 「約束を守る」ことを約束させる。
- ※ 大切なのは，「自己規制力をつける」→児童の自律へつなげること